

## 17ちゃんの報告



前川 義信

今年の2月、季節はまだ庭にある桶の水が凍るほどの冬である。

そんなある日、小鳥たちが畑の雪菜の葉を食べ始めていた。その、穴だらけになった雪菜を見て、野鳥たちの冬越しの厳しさを思い、何か助けになればと思い、いつもはコンポストに捨てていたご飯粒（仏壇から下ろしたもの）を庭にまいてあげようと思ったことが始まりでした。

以前から庭にやってくる小鳥たちの名前は知っていたので、一体何種類がこのご飯粒に集まるだろうと調べることにしました。

週に4~5回ほど、仏壇から供物のご飯を下ろすと、朝7:30前後に居間の前庭と畑の空き地にまいてみました。

めざとく見つけたのはスズメの群れでした。それにつられてヒヨドリもやってきました。

スズメ（スズメ目スズメ科）たちの様子を見ていると、先発隊のような1~2羽がまず現れます。

ご飯粒を見つけると、けたたましく鳴き始め、仲間を呼んでいるようです。その声を聞いた仲間が少し遅れて全部で20羽弱の群れが大騒ぎをしながら現れます。

安全を確かめるとどんどん降りてきて、ついばみ始めます。ご飯粒は、バラになった1~2粒をクチバシでついばみます。それより大きい塊はつつくだけで、ばらそうとせ

ず、そのまま残していきます。



スズメが残した塊でも、一粒でも構わず飲み込んでしまうのがヒヨドリ（スズメ目ヒヨドリ科）です。

少々の塊でもガブガブと飲み込んでしまいます。

見ていると野鳥の中では、一番人に慣れやすいようで、食べているときに偶然私と出会ったときでも、4~5メートルの間隔さえあれば、逃げずにチラチラ人を見ながら、一応警戒はしているぞという雰囲気を出して食べ続け、止めようとはしません。

肝が太いというべきか、図々しいと言うべきかその性格を言い表すことが難しいです。

また、居間の窓辺に来て餌をおねだりします。そのときは、外から人と目を合わせて、「ご飯粒ください。」と訴えるように鳴きます。人に甘えているようです。



その後来訪するようになったのはキジバト(ハト目ハト科)です。画像は撮れませんでした。いつもタイミングが合いません。玄関の軒下灯の上に巣を作ろうとしたので、それだけは勘弁してもらいたくて、段ボールのカバーを掛け、退散いただきました。

冬鳥のツグミ(スズメ目ヒタキ科)も時々やってきます。肉食なのか、ご飯粒に興味を持ちません。我関せずの境地なのか、虫しか食わぬと意地を張っているような、自尊心の塊の鳥です。



ツグミと同じくらいで、黒っぽい鳥が庭を歩いていました。よく見ると、腹が赤い羽毛に覆われて、見るからにおしゃれな羽毛で着飾ったイソヒヨドリ(スズメ目ヒタキ科)でした。昨年の春はよく庭の虫を捕まえては食べている姿を見かけたのですが、今はまだ冬。よほどお腹がすいたのか、ご飯粒

を食べる姿を初めて見ました。もしかすると雑食なの?と疑問に思います。きれいな羽で着飾っていても空腹には耐えられず、ご飯粒でもご馳走と思ったのか、なりふり構わずおいしそうについばんでいます。また、暖かくなったらあの美声を聞かせてもらいたいと思い、邪魔しないように静かに撮影しました。



また、留鳥でいつも庭を訪問して虫を食べているハクセキレイ(スズメ目セキレイ科)がいます。これも、イソヒヨドリ同様冬になるとご飯粒を食べるようです。尾羽を地面に定期的に叩きながら歩く姿がかわいい鳥です。皆さんもご存じでしょう。人なつこい鳥で、畑仕事をしていると、近くに寄ってきては、畑から出てくる虫を捕まえています。追いかけても走って逃げるだけです。



以上 6 種類の鳥を報告いたします。

参考文献：日本野鳥の会 ネット上の野鳥図鑑「BIRD FAN」